

雑 纂



井口 邦男

部史を作るから何か書けと、浅野さんに強
迫されて、何を書いていいのかわからず、大
いに弱りながら書く次第です。部史という
からには過去の戦績や部の盛衰など、多く
の先輩が歩んで来た道から教訓と自信、高
津ハンドボール部員であることの喜びと誇
りを学びとつて欲しいと思います。しかし
、私にこれから書くこととして、いる事は部史
に関係があるかどうかとも疑しい事なので、
書くのも本当に気がひけますが、ほんの一
年でも在部して、いた者の感想と思ひ出だと
思つて読んで頂ければ幸いです。

私は現在大学でもハンドをやっているの
ですが、此のスポーツとの因縁を思う時、い
つも人の世の不思議さといつたものを感じ
ないではおれません。高津に入学したての
時は運動クラブに入る事など考えもしま
せんでした。その私が勉強と運動を両立させ
て

やろうという殊勝な決心をしたのは何時の
ことでしょうか。それは斎藤と知り合つて少
なつた時のようです。人の中には会つて少
し話をしただけで好きになれる相手がある
ものですが、現在京大工学部一回生の斎藤
というの、もちよつとそういう相手でした。
クラスメイトの中でも彼は魅力のある奴で
話しぶりに親みを感じられ、皆にも人気
があつた上に成績も大変優秀でした。その
彼が私にハンドの存在を教えてくれたので
した。私がハンドに入部したのは彼を知つ
た直後でしたが、それは彼の手柄にひかれ
て入部したのだといつてもいいでしょう。
私が退部してしまつてから彼も退部を
しまつたが、今思うとここにも何か不思議な
つながりがあつた様な気がしないでもあり
ません。ハンドの練習についてたずねた時
ボールを受けたら、今になりするだけやと彼
は答えました。今になりするからなの
忘れられないのは共感を覚えるからなので
しよう。実際、ハンドに限らずスポーツと
いうものは単純なものに思われまふ。その
単純さは強くなるための勝つためのみ、技
を磨くという所から生じるので、み
それ故にこそ先輩や現役諸君を見て、分
らさうに、スポーツマンには或る強さ、男
らさうに、スポーツマンには或る強さ、男

に囚われない、単純で率直な性格が養われ
るのかもれません。私は或るやむにやま
れぬ事情で一年間しかハンドが出来ず、従
って高校時代はスポーツマンたり得る事も
できませんでしたが、大学生である現在、
學問の修得を目指す自學な学生であると
時に、純真でたくましいスポーツマンたり
得ようと努力しております。

さて思い出されると、数字と単語に痛め
つけられた頭では僅か三年前の出来事やえ
も思い出せないのでしょうか。記憶に残っ
ているのはなつた一度の夏の合宿の事だけ
で、その思い出さずともはるか彼方に霞んで
しまい、苦しかったという感覚だけが残っ
ているにすぎません。その合宿が、いまだ
かつて苦しい鍛練を全驗していなかっただ
に、苦しさとはこういうものだと教え示し
てくれたのでした。そういう意味では、そ
の合宿中きついたしほり方をされた榎本さん
をはじめとする多数の先輩に感謝すべきだ
と思っております。それにしても、榎本さ
んの練習中の言葉使いの荒さや、しほり方
のきつさには度胆をぬかれました。一年生
同志お互いに陰でヒソヒソ話をしてはウツ
プンを晴らしたようにも記憶します。また
朝の寝覚めを快く感じたのは才一日目の朝
だけで、楽しみは寝る事と食べる事だけで

した。中にはメシも食べたくないというも
のが大分ありましたが、ことに私に關する限
り、ボールを受け損うことは、しばしばで
したが、メシだけは絶対に見逃しませんで
した。体重が減った減ったと皆が言う中で
私の体重がふえたのもそのおかげかもしれ
れません。先輩の誰かが、合宿で体重がふ
えるのは平素あまりいいものを食べていな
い証拠だと言われたのを聞いて、そんなも
のかなと思ったりもしました。しかし、合
宿が終りに近づくとつれて体重が減る一方
であつたのはいうまでもありません。今年
の夏の合宿には、私も先輩の一人として参
加させてもらいました。現役諸君が激し
い練習に耐えているのを見て、あの頃は
もっときつかったと思えて仕方があ
りませんでしたが、実際は大した違いはない
のでしようが、その時の流れの偉大さで
、あいまいになった記憶に懐古の情が加つ
てそう思えたのでしよう。とにかく練習は
苦しい。その苦しい練習を経てこそ勝利が
より一層感動的なものとなるのです。偉そ
うな事をいうようですが、現役諸君の奮闘
を期待してやみません。向う所敵なしの無
敵の高津が勝利の栄冠を手にする事を祈り
つつ私はペンを置きたいと思ひます。

Victory always goes to the strong.